

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290300110		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム 妙水苑		
所在地	八戸市大字妙字分枝43		
自己評価作成日	平成26年10月5日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先<http://www.aokaigoivouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0290300110&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成26年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の余暇の心身の活性化に特に力を入れている。 利用者様の状態に合わせて、家事のお手伝いを行っていただいたり、レクリエーションでは全体での体操の他、季節に応じた掲示物の作成等、個別レクリエーションも工夫をこらしながら実施している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は利用者の個別性、地域に根ざした事業所づくりを重視して作成している。理念を朝、スタッフで唱和し、共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへ積極的に参加し、販売の他、介護相談を行う等して、事業所を理解していただけるよう、PR活動を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、入居の希望があった際は積極的に対応している。また、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行っており、その際は事前に、利用者のプライバシーについて十分に説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを十分に理解していただけるよう、わかりやすく資料を作成している。会議では自己評価及び外部評価の結果等について説明を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を事前にファックスで依頼し、参加していただいている。課題解決に向けて、必要に応じて市の担当者に助言を求める等、連携・協同を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を定期的に行い、全職員の理解と周知を図っている。日々のケアでは利用者個人の尊厳を重視し、身体拘束を行わないという姿勢で取り組んでいる。必要時は家族に十分に説明を行い、身体拘束ケアプラン、経過について記録をとり、身体拘束解除に向けて取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等についての研修を定期的に行い、全職員が制度について理解を深め、虐待の未然防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について定期的に研修を行い、全職員の理解、周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事前に十分に説明を行い、事業所の方針について十分に理解をいただいている。利用料金変更時等は速やかに説明し、同意を得ている。また、入・退去をスムーズに行えるよう、家族や他事業所等と相談を十分にを行い、情報提供を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口についての案内を、事業所のわかりやすい場所に掲載している。運営推進会議では家族にも参加を依頼し、意見を話せる機会づくりに努めている。月1回のお便りにて、利用者の受診状況や暮らしぶりについて、家族へ報告を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	異動時は職員の意欲や技術向上に配慮し、利用者に影響がない範囲で行っている。会議の場の他、個別の面談を行いながら、職員の意見が運営に反映されるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置時は職員の技術、能力に応じて配置を考慮し、個人目標の設定、評価を行い、意欲向上に努めている。健康保持のための健診を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を積極的に促し、報告書を作成している。研修参加者は得た知識を他職員にも共有できるよう、研修報告、伝達講習を定期的に開催している。研修受講時は勤務調整を行い、勤務体制に十分に配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会で開催する研修や交流会への積極的な参加を行い、交流・連携の機会を設けている。意見交換等で得られた他事業所の取り組みを取り入れる等して、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談時は迅速に対応し、入居に関して、利用者や家族に不安がないよう努めている。相談時は親身に相談を聞き入れ、信頼関係を築くと共に、十分に事業所の方針について理解をいただけるよう、わかりやすい説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームに関しての入居以外の問い合わせについても見学をしていただく等、グループホームの特性について理解を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は利用者、家族、医療機関からの情報収集を十分に行い、ケアプランに反映させている。対応については定期的なモニタリングによって、適切なサービスの実施を日々、検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者が馴染の関係となり、日々の生活の楽しみを共有できるよう努めている。家事等、利用者個々の能力に応じて行いただき、生きがいや楽しみを共有できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の支援について、家族にも協力を得られる事については、相談の上、ケアプランに活かしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他部署に入居している利用者の知人が面会に来られたり、知人・親族の手紙等で、近況について利用者が知れるよう、気軽に交流が図れる場を作っている。必要に応じて、手紙の代読を行う支援も実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のトラブルがみられる際は、職員が関係を取り持ち、関係改善に努めている。部屋にこもりがちな利用者には気分を見計いながら、孤立しないよう声がけし、馴染の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や入院後等も、利用者や家族との情報交換を必要に応じて行い、他事業所や医療機関を紹介する等して、不安の軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時はセンター方式の活用、家族の情報、医師、看護師の助言等を基に、利用者本位の支援を行うよう努めている。意志決定困難な利用者についても、本人の思いを汲み取り、本人本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人を取り巻く周囲の環境や人、生活歴等、あらゆる視点でアセスメントを行うよう努めている。情報収集の際は、利用者のプライバシーにも十分に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の活用、観察等により、生活リズムの把握に努め、利用者本位の支援に繋げている。また、本人の趣味や能力を活かし、家事のお手伝いやレクリエーションの支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時はモニタリング、カンファレンスを行い、個別具体的な支援を行うよう努めている。他職種への助言等も活かしながら、状態に応じた計画づくりを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用する等、日々の支援の気づきを共有し、支援に活かしている。記録はケアプランに沿って行い、些細な変化についても記載し、職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスの他、外出時等は利用者に不安等が生じないよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では町内会長や民生委員、家族と利用者の状況や地域での活動について、情報交換を密に行っている。ボランティアを積極的に活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態に応じて受診を行っており、お便りによって受診状況をお知らせしている。健康状態が変化した時は家族へ速やかに連絡を行い、共有を図っている。希望医療機関については本人、家族の意向により決定している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携を行い、必要時は助言を求め、異常の早期発見に努めている。急変時の対応についてもマニュアル化し、適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関担当者へ情報提供を行い、連絡をとりながら、利用者の状態の把握に努め、早期退院のための情報交換を行っている。その後の再入居等についても家族と相談し、トラブルがないよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針について、入居時に同意をいただいている。健康状態が悪化した時は、医師と家族との面談を行い、支援について意志統一を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの社内研修を定期的実施している。緊急時の対応をマニュアル化し、共有している。また、救急救命の研修は数名のみ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を定期的実施している。防災に関するマニュアルを作成している他、各ユニットに非常食を常備し、管理している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個人情報やプライバシーに十分に配慮している。日々のケアでは適切な言葉づかいや対応を行うよう、職員に指導している。研修にも積極的に参加し、ケアに活用して改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定困難な利用者についても本人の意向に沿えるよう、観察や声がけを行っている。また、家族からの情報もケアに取り入れ、利用者本位の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩等、利用者の気分に応じて気軽にできるように声がけし、支援している。拒否時等は無理強いせず、本人の意向を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪等は利用者の希望があれば日程を調整し、実施している。身だしなみについては季節に応じた服装ができるようにしている。必要があれば声がけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者個々の嗜好に合ったものを提供している。食事は職員も一緒にとり、楽しみを共有している。後片付けが可能な利用者には積極的に家事を行っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	浮腫の状態や嚥下能力等、健康状態に応じて、食事量や形態、水分摂取量を調整している。医師、看護師へも経過について報告し、助言を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声がけや必要時は介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯の調整が必要な時は協力歯科医院へ連絡し、治療を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、羞恥心にも十分に配慮して、個別の援助を行っている。また、皮膚トラブルがないよう観察を行っている。オムツの使用についてはカンファレンス等で検討し、慎重に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師への相談の下、排便コントロールを適切に行っている。また、下剤の調整だけでなく、水分摂取量にも配慮している。排便状況については職員間で把握できるよう記録している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の身体状況や好みに配慮しながら、入浴を行っている。拒否が強い利用者については声がけの方法を工夫したり、浴室の環境を整え、安心して入浴できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の健康状態、体力等を考慮し、日中、臥床時間を設ける等している。不眠傾向にある利用者については眠剤の調整だけでなく、日中の活動時間を増やす等して、夜間の安眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れ、誤薬がないようチェック表を作成したり、職員2名で薬の準備を行っている。内服薬の変更があった際は記録し、申し送りを行い、職員間の共有に努めている。副作用についても医師、看護師から助言を得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力や嗜好に応じて、余暇の支援を行っている。家事等、利用者の意欲、興味に応じて働きかけ、有意義に生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出イベントを行っている。その際は季節に応じたイベントを計画・実施している。利用者の体力や健康状態にも十分に配慮し、イベントの計画を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な利用者でも、要望があれば家族に事前に相談し、財布を自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば、家族へ電話をかける等の支援をしてる。手紙の代読も必要があれば行っている。面会予定日についても利用者にお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物は季節に合った物を作成し、掲示している。周囲に不快な音がないように配慮し、不穩の原因とならないよう環境整備を行っている。事業所内の湿度・温度管理を徹底し、快適な生活環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間のトラブルがないよう座席を検討し、環境を整えている。また、共用の場所にソファを設置し、気分に応じて気楽に過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族の写真を自由に掲示したり、仏壇を置く等、家族に相談して協力を得ながら、居心地の良い居室となるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じてトイレ内に手すりを設置したり、転倒防止のための間接照明を設置する等、ADL状況に応じて環境整備を行っている。ベットや家具の配置についても利用者本人と相談し、安全で使いやすいように配慮している。		